

小松利民・沼田康夫・水野利彦・田辺恒彰・各務一夫・野中俊文・前田大輔・北島裕紀, 2016. 愛山溪の蛾 (第47回みくに会大雪山国立公園採集調査会報告). 蛾類通信 280: 125-132.

鈴木信也・荒島弾・遠藤弘志・平坪和規・飯森政宏・笠井初志・小西岳史・川島育海・町島佳幸・宮野昭彦・野中俊文・朴鎮亨・阪本優介・四方圭一郎・白畠かおり・田島尚・矢野高広・横田光邦・岸田泰則, 2024. 長野県伊那市長谷黒河内 (第52回みくに会) で得られた蛾類. 誘蛾燈 258: 111-121.

鈴木信也・阪上洸多・枝恵太郎・松井悠樹・野中俊文・佐々木公隆・田島尚・外村俊輔・吉田慧・岸田泰則, 2023. 2022年7月22～24日に宮崎県日南市 (第51回みくに会) で得られた蛾類. 誘蛾燈 252: 78-86.

鈴木信也・宮野昭彦, 2020. 長野県伊那市長谷黒河内 (第50回みくに会) で採集した蛾の記録. 誘蛾燈 239: 9-12.

田中淑喬・間野隆裕・山本光人・加藤房郎・宮野昭彦, 2008. 長野県大町市葛温泉 (第34回みくに会) で採集した蛾類. 蛾類通信 247: 393-398.

Summary A collecting event called the “Moth Blitz” organized by the Japan Heterocerists’ Society was held in Sado City, Niigata Prefecture, Japan from 19:00 on July 6 to 07:00 on July 7, 2024. The species and number of individuals collected during this event are listed in this paper. This survey was modeled after “Bio Blitz” events carried out mainly in the United States and EU countries as citizen science initiatives.

ツバキネマルハキバガの千葉県の記録

齊藤 修

270-1119 千葉県我孫子市南新木 2-12-4

Records of *Lateantenna camelliae* (Chen & Wu, 2019) (Blastobasidae) in Chiba Prefecture

Osamu SAITO

Japan Heterocerists’ J. 316: 478-479. December 2025.



Figs 1-2. Adults of *Lateantenna camelliae* (Chen & Wu). 1. Male. 2. Female. Scale bar 1 mm.

ネマルハキバガ科 (Blastobasidae) は国内から13種が知られており、千葉県からは6種が記録されている (齊藤, 2023). 斑紋は互によく似ており、識別には交尾器を検鏡する必要がある。特に雌では差異が微妙な場合があり、同定の難しい分類群である。

筆者は千葉県で蛾相調査を実施し、これまで本科の記録を取り纏めて発表した (齊藤, 2018). しかし上述の理由から、一部の雌について同定を保留してきた。今回、新たに調査で得た標本と、同定を保留した標本を精査した結果、国内での記録がほとんどない *Lateantenna camelliae* (Chen & Wu, 2013) ツバキネマルハキバガの雌雄 (Figs 1, 2) を確認したので報告する。

筆者は2016年に本種1雄を採集しており、交尾器の形態から国内では未知の種と考えた。京都府立大学の大島一正教授にお尋ねしたところ、未記載種であろうとの回答をいただいた。その後、宮野 (2022) によって国内

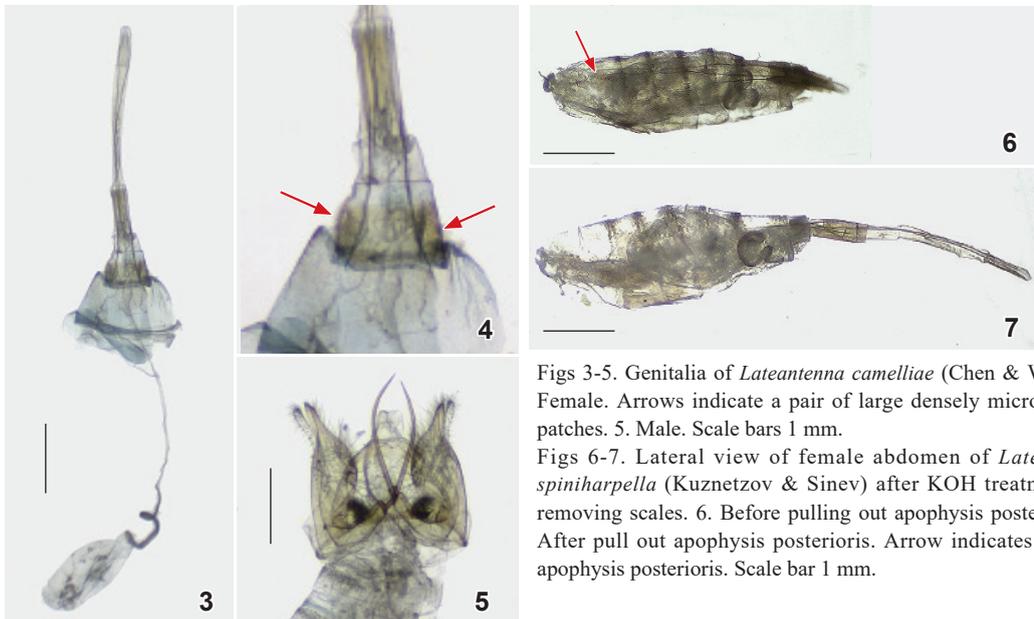
で初めて本種1雄が記録され、和名ツバキネマルハキバガが提唱された。その後、ヒサカキから1雌が得られた (宮野, 2025). 今回、手元の標本を精査したところ、ツバキネマルハキバガ3雄2雌を確認した。雌交尾器 (Figs 3, 4) については、Teng & Wang (2019) を参照した。記載およびその後の分類学的な経緯については宮野 (2022) を参照されたい。採集・保管は特に記述のないものは著者である。

発表にあたり、種々、ご教示いただいた京都府立大学の 大島一正教授と岐阜県の宮野昭彦氏に感謝する。

データ

1♂1♀, 成田市大竹, 13. VI. 2015; 1♀, 同, 4. VI. 2016; 1♂, 同, 18. VI. 2016 (京都府立大保管); 1♂, 印旛郡栄町龍角寺, 24. VII. 2021.

なお、本種の前翅長は♀: 5.5-6.0 mm (n=4) (Teng &



Figs 3-5. Genitalia of *Lateantenna camelliae* (Chen & Wu). 3-4. Female. Arrows indicate a pair of large densely microtrichiate patches. 5. Male. Scale bars 1 mm.

Figs 6-7. Lateral view of female abdomen of *Lateantenna spiniharpella* (Kuznetsov & Sinev) after KOH treatment and removing scales. 6. Before pulling out apophysis posterioris. 7. After pull out apophysis posterioris. Arrow indicates a top of apophysis posterioris. Scale bar 1 mm.

Wang, 2019), 開張は♂: 14 mm (n=2) (Park et al., 2014), ♀: 10.7 mm (n=1) (宮野, 2022)と報告されており, 今回の調査標本の前翅長は, ♂: 5.8 mm (n=2), ♀: 7.0 mm (n=2), 開張は♂: 11.3 mm (n=2), ♀: 14.6 mm (n=2)であった。

付記: ネマルハキバガ科の *Blastobasis*, *Neoblastobasis*, *Lateantenna* の各属の雌は非常に長い apophysis posterioris を持つことが知られており, apophysis anterioris との長さの比率が論じられている種がある (Ohshima et al., 2018)。また, 腹部第8節~第9+10節の形態が, 雌の分類に重要な役割を果たしている。上記各属雌の apophysis posterioris は, 通常は腹部背面中央に添って収納されており, その先端は第2腹節付近まで達する (Fig. 6矢印)。雌交尾器検鏡の際, 腹部を解剖した後に papilae analis 付近をゆるくつつかんで引き出すことは可能だが, apophysis posterioris が折れ曲がったりすると腹部第8, 9+10節を完全に引き出すことが難しくなり, その後の同定作業に支障をきたすことがある。そこで, 腹部を解剖する前に腹部第8節~第9+10節を引き出しておく (Fig. 7), その後の作業が容易になる。この科の分類・同定作業に有効な情報と考え付け加えた。なお, Figs 6-7は *Lateantenna spiniharpella* (Kuznetsov & Sinev, 1985) ウスイロネマルハキバガを用いた。

また, ツバキネマルハキバガ雄交尾器については, 水酸化カリウム処理後に腹部の鱗毛を処理した時点で, valva のトゲ状突起が非常に長く, 交差しているのが腹面から確認できるので (Fig. 5), 容易に同定できる。

引用文献

- Ohshima, I., S. Yagi & D. Adamski, 2018. Discovery of *Blastobasis spiniella* (Lepidoptera: Blastobasidae) in Japan. *Lepid. Sci.* **69**: 93-98.
- 宮野昭彦, 2022. 日本未記録のネマルハキバガ科 *Lateantenna* 属の1種. 蛾類通信 303: 88.
- 宮野裕子, 2025. 岐阜県各務原市の耕作地に生育する樹種の枯葉を寄主とする7科18種の記録. 誘蛾燈 260: 38-43.
- Park, K.-T., M. Kim & B.-K. Byun, 2014. A new and unrecorded species of the genus *Neoblastobasis* Kuznetsov & Sinev (Lepidoptera: Blastobasidae), with a tentative catalog in Korea. *J. Asia-Pacific Biodiv.* **7**: 233-236.
- 齊藤 修, 2018. 千葉県ネマルハキバガ科の記録. 房総の昆虫 63: 64.
- 齊藤 修, 2023. 千葉県蛾類目録 2022. 157 pp. 自刊. 我孫子市.
- Teng, K. & S. Wang, 2019. Taxonomic study of the genus *Lateantenna* Amsel, 1968 (Lepidoptera: Blastobasidae) from mainland China, with description of four new species. *Entomol. Fenn.* **23**: 1-19.

Summary Male and female of a little known blastobasids *Lateantenna camelliae* (Chen & Wu, 2019) are recorded from Chiba Prefecture. The adults and the genitalia are illustrated with some biological data. In addition, a useful procedure for identifying females of the taxon is demonstrated.